

明日へ向けてのアピール（24）

手話が言語として尊重され早期から学べる環境作りに向かって前進しよう

札幌市において、第24回ろう教育を考える全国討論集会が2012年8月4日、5日の二日間にわたり開催され、全国から集まった400名の参加者が記念講演、5つの分科会、2つの選択コース、小学生・中高生企画に参加し学習、討論を行いました。

開会式には北海道・札幌市長・北海道教育長から激励の言葉をいただきました。道・市から会場や備品借用など物心両面の支援を頂きましたが、北海道ろうあ連盟、札幌聴覚障害者協会をはじめとする関係団体、そして実行委員会の熱意ある取り組みに感謝します。

記念講演は、日本言語政策学会前会長の田中慎也氏から「改正障害者基本法第3条をどう活かすか」をテーマに話して頂きました。昨年8月5日に施行された改正障害者基本法で「言語（手話を含む）」と規定されたことは言語の多様性を認めたことであり法体系に手話が入った意義を分かりやすく解説していただきました。世界的にも人種や言語・性別・宗教などの「多様性」を認め、それにふさわしい社会設計が進んでいることを学ぶことができたと思います。

この記念講演を踏まえ、今回の北海道集会の特徴は、乳幼児からの手話環境をどのようにつくっていくか、聴覚障害があると分かったときから、医療関係者だけでなく、療育・教育関係者等と連携して、情報の提供や手話学習の機会を提供していくシステムをつくっていく取り組みの必要性が確認できたと思います。

そのためにNPO法人ろう教育を考える全国協議会は、二つのことを行います。一つは高田英一氏著の「手話教育 今こそ！障害者権利条約から読み解く」の普及です。もう一つは乳幼児期のコミュニケーションや人工内耳等の新しい課題に向き合う新たなプロジェクトチームを立ち上げることを決定したことです。ろう教育を考える全国協議会だけではできません。様々な立場の人、団体と連携して取り組むことがもとめられています。

2日間という短い期間でしたが、ろう教育の課題について深く学び語りあうことができたことは大変有意義な集会でした。私たち全国協議会は、全国・各地のろう教育関係団体とともに、加入団体の門戸を広げ、私たちの目的に賛同いただく団体・個人に入会いただき、障害者権利条約の理念のもと、ろう・難聴児が生き生きと学び育つ環境の実現に取り組んでいきます。

参加者一人一人が、この集会で語り合ったろう教育の未来の実現に向けて、地域で仲間とともに取り組みましょう。そして来年の夏、長崎でその取り組みの成果を持ち寄って、再会しましょう。

2012年8月5日

第24回ろう教育を考える全国討論集会 in 北海道 参加者一同